



## 吉井 瑞穂 / Mizuho Yoshii (Ob)

甘い音色と豊かな音楽性で世界の聴衆を魅了する国際派オーボエ奏者。

神奈川県鎌倉市出身。14歳からオーボエを始め、東京芸術大学入学後、渡独してカールスルーエ国立音楽大学で学ぶ。在学中、第66回日本音楽コンクールで優勝したほか、英バルビローリ国際オーボエ・コンクール、日本管打楽器コンクールなどで入賞。首席で卒業後、カラヤン財団より奨学金授与され、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団でエキストラ奏者として活躍。シュトゥットガルト国立歌劇場管の首席奏者を経て、2000年からマーラー・チェンバー・オーケストラの首席オーボエ奏者として、欧州を拠点に活動している。同オーケストラの設立者であるアバド（共演は200回以上）をはじめ、ヴァント、アーノクール、ブルーーズ、ヤンソンス、小澤征爾、ラトル、ハーディングら世界的巨匠の指揮で演奏を重ねており、エクサンプロヴァンス音楽祭、オールドバラ音楽祭などの主要音楽祭に出演している。その他、シュトゥットガルト放送響、バイエルン放送響、ケルン放送響、フランクフルト放送響、ブタペスト祝祭管、バンベルグ響などで客演首席奏者を務めた。

ソロや室内楽でも活発に活動を展開。2006年のザルツブルク・モーツァルト週間では、ゲーベル指揮でJ.C.フィッシャーのオーボエ協奏曲のソリストを務め、絶賛を博した。国内外でリサイタルを開催するほか、室内楽では、ラルス・フォークトの主宰するハイムバッハでのシュパヌンゲン音楽祭にも出演。2017年にはレイフ・オヴェ・アンスネスが音楽監督を務めるノルウェーのリソール室内楽音楽祭に出演予定。また、2009年に5人のオーボエ奏者によるユニット「オーボエ・ファイブ」を結成し、オーボエという楽器のさらなる可能性を追求している。2015年からはレゾナンス「鎌倉の響き」コンサートシリーズを主宰し、故郷での地域に根差した新たな活動に力を注いでいる。

ニューヨークのマンハッタン音楽院、イギリス、スペイン、ドイツ、コロンビア、ベネズエラなどでマスタークラス教授として招かれ、後進の指導にあたっている。

井口博之、トーマス・インデアミューレ、モーリス・ブルグ、小畑善昭の各氏に師事。